

事務事業チェックシート

事務事業No

事業名

[事業基本情報]

8700

ふれあい収集事業

[長期総合計画]

分野別目標	2	住みたいと選ばれる魅力があふれるまち
政策	4	自然と共生する環境にやさしい社会の形成
施策	2	循環型社会の形成
取組方針	2	廃棄物の適正処理、適正管理

事業区分(1)	事業経費	○	管理経費	
	その他			
事業区分(2)	自治事務	○	法定受託事務	
	その他			
会計・ 予算区分	会計	一般会計		
	款	衛生費		
	項	清掃費		
	目	塵芥処理事業費		
	大事業	塵芥処理事業		
	中事業	ふれあい収集事業		

事業種別	継続		関連個別計画			
事業年度	無し	～	無し	担当課・担当課長・Tel	収集センター	北山 勝也 471-1503
事業実施の根拠法令	和歌山市ふれあい収集実施要綱		関連課			

1 事業内容

事業目的	(「誰・何」をどういう状態にするための事業か)		全体事業概要			
	高齢や障害等で自分でごみを出すことが困難な人に対し、いたわりのある廃棄物行政を行う。		単身高齢者世帯の戸別ごみ収集 要支援世帯の戸別ごみ収集			
事業内容	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	
	高齢や障害等で自分でごみを出すことが困難な人を対象に職員が決まった曜日に自宅まで直接ごみを取りに行く。また、希望があれば「声かけ」を行う。	高齢や障害等で自分でごみを出すことが困難な人を対象に職員が決まった曜日に自宅まで直接ごみを取りに行く。また、希望があれば「声かけ」を行う。	高齢や障害等で自分でごみを出すことが困難な人を対象に職員が決まった曜日に自宅まで直接ごみを取りに行く。また、希望があれば「声かけ」を行う。	高齢や障害等で自分でごみを出すことが困難な人を対象に職員が決まった曜日に自宅まで直接ごみを取りに行く。また、希望があれば「声かけ」を行う。	高齢や障害等で自分でごみを出すことが困難な人を対象に職員が決まった曜日に自宅まで直接ごみを取りに行く。また、希望があれば「声かけ」を行う。	高齢や障害等で自分でごみを出すことが困難な人を対象に職員が決まった曜日に自宅まで直接ごみを取りに行く。また、希望があれば「声かけ」を行う。

2 事業コスト

事業費等(千円)	令和03年度		令和04年度		令和05年度		令和06年度		令和07年度		
	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	計画	決算	
事業費	410	390	351	347	431	411	397	0	397	0	
伸び率(%)	2%	51.2%	△14.4%	△11%	22.8%	18.4%	△7.9%	△100%	0%	0%	
人件費	正規職員	29,943	29,943	30,051	30,362	31,114	31,350	31,428	0	31,428	0
	正規職員以外	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小計	29,943	29,943	30,051	30,362	31,114	31,350	31,428	0	31,428	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
県支出金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
市債	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
一般財源(税等)	410	390	351	347	431	411	397	0	397	0	
所要人数(人)	正規職員	3.86	3.86	3.86	3.90	3.96	3.99	4.00	0.00	4.00	0.00
	正規職員以外	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
主な予算内訳	自動車燃料270千円、自動車修繕133千円										

3 目標及び実績

活動指標	指標名	単位		令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
				目標値	実績値	達成度(%)	目標値	実績値
ふれあい収集申込件数		件	目標値	60	60	60	60	60
			実績値	34	36	37		
			達成度(%)	%	%	%	%	%
ふれあい収集実施件数		件	目標値	250	250	250	250	250
			実績値	193	182	189		
			達成度(%)	%	%	%	%	%

4 事業の評価

評価基準					
[妥当性]事業のニーズはあるか	○	増加している		横ばい	減少している
[妥当性]事業手段は妥当か	○	現行の手段でよい		一部見直しが必要	見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か	○	市が行うべき		他の主体との協働も可能	市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要があるか		急いで取り組む		中長期的に取り組む	○ 緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか	○	できる		あまりできない	できない
[有効性]成果目標ほどの程度達成しているか	○	達成している (90%以上)		おおむね達成 (70~90%未満)	達成していない (70%未満)
[有効性]上位施策への貢献度		重要かつ高い貢献度がある	○	一定の貢献度がある	貢献度は低い
[効率性]事業費を抑制できるか	○	できない		制約はあるが可能性はある	できる
[効率性]受益者負担の見直し		適正	○	負担は求められない	見直しが必要

5 今後の方向性 (担当課評価)

事業内容の方向性	充実				○
	現状維持				
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	利用者に対して問題なく事業が遂行された。
見直し・改善内容	高齢化が進む中で需要は高まっており、現行の要件を見直し、より多くの方に利用していただきたい。